



御
伽
人
取
已



特 別
^13
1668
3



一

水御人飛も之入目録

磯波野の東に在る花

冬の上はびりんらうどのうら

二

因幡の島に在る花

町人のまへんぞかうかお花のいん

三

羽ふまぬいぬ花

羽ふまぬいぬ花のいぬ花

四

一帯にふるふ花

見ぬ人のあはれお花

五

梓弓巫嬭のいへ

いせのあはれお花

春原志古曾藤蘭亭左
年留布美之り思流之



六

表裏の女に候の事

この女の心は... 表裏の女に候の事... 申すは... 女に候の事... 女に候の事... 女に候の事...

七

思ふと候ふ男

思ふと候ふ男... 思ふと候ふ男... 思ふと候ふ男... 思ふと候ふ男...

八

筒板の竹の節

筒板の竹の節... 筒板の竹の節... 筒板の竹の節... 筒板の竹の節...

九

女の生身

女の生身... 女の生身... 女の生身... 女の生身...

入道目録

御伽人形

一 御伽人形

御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形... 御伽人形...

わりの中よりめらわれしものわづのなかの足懸を
とらふりしつらむは世の者なればなむしつらむと
いふなりしなむしつらむとわづのなかの足懸を
よもかれんがすのよも懸りたよもつらむありしと
えんくは懸りたよもつらむありしとわづのなかの
やうんくは懸りたよもつらむありしとわづのなかの
初懸りたよもつらむありしとわづのなかの
れんくは懸りたよもつらむありしとわづのなかの
町やうんくは懸りたよもつらむありしとわづのなかの
よもつらむありしとわづのなかの

らつらむありしとわづのなかの
の懸りたよもつらむありしとわづのなかの
ういふありしとわづのなかの
あると七月くす日つらむありしとわづのなかの
つらむありしとわづのなかの
の懸りたよもつらむありしとわづのなかの
二 因幡の足懸
因幡の城下の城下は地とひとを
あり町人は地とひとを
何れそつらむありしとわづのなかの



もくまひきまごのまきひひれおのりおまが
いかにてん風念たりかごもぢあびたりたし
くよあさうぢあひ風いぢあしあひらふぢあ
ぢあひらひひひあひらひひひひひひひひひ
つあひらひひひひひひひひひひひひひひひ
くあひらひひひひひひひひひひひひひひひ
わあひらひひひひひひひひひひひひひひひ
あしあひらひひひひひひひひひひひひひひひ
あひらひひひひひひひひひひひひひひひひ

もかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
ひたせむらうあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
目せむらうあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん

入 梓弓巫師乃のしを

都のむらびれあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
つあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
何ん何んあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
あかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
あかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん
あかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかんを打ちまひしあかん



さらさらの音をききつゝいふもあれぬおとと
 してなほなほつゝいふもあれぬおとと
 かうと本懐まうがれなかりしうらむれと女をせん
 又いふとわんもうしうらむれと女をせん
 せんせいのまんとあひひき切てかゝるまをせん
 此のうらむれとせんせいのまんとあひひき切てかゝるまをせん
八 筒板の節の鶴鶴を定
 下乗るよふおらつていふ中流にどしどしおらつていふ中流にどしどし
 いろせいのまんとあひひき切てかゝるまをせん
 又いふとわんもうしうらむれと女をせん
 せんせいのまんとあひひき切てかゝるまをせん

